

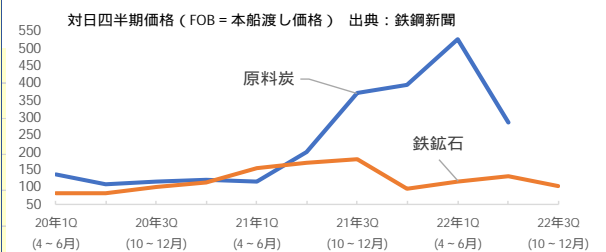
鋼材類は、2020年初頭に新型コロナウイルス感染症の世界的蔓延により需要が低迷。2020年半ば頃に、経済活動再開により世界の鋼材需要が急回復したことにともない鉄鉱石・原料炭や鉄スクラップの価格が上昇に転じ、原料高を受けたメーカーの値上げにより上昇基調へ転換した。2022年に入るとウクライナ情勢の悪化や円安進行から原料価格がさらに上昇し、鋼材急騰局面を迎えた。

【主原料の価格動向】

鋼材は鉄鉱石、原料炭を主原料とする高炉製品と鉄スクラップを主原料とする電炉製品に大別される。

鉄鉱石・原料炭

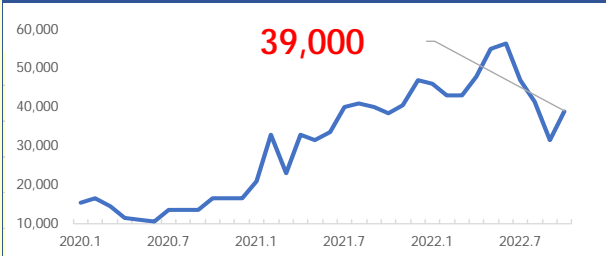
(単位：USドル / t)



ウクライナ情勢及び天候不順による供給不安から、鉄鉱石・原料炭とも上昇。足元では、中国の景気減退を中心とした、海外の鋼材需要減少に伴い、下落基調に転じている。

鉄スクラップ (東京)

ヘビー H 2 (単位：円 / t)

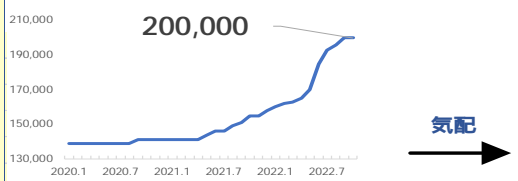


上昇基調が続いていた鉄スクラップは5月GW明けより下落に転じる。3か月で25,000円の急落後、直近10月号で7,500円の反発。

【主要鋼材の価格動向 鋼矢板 (全国*沖縄除く)】

熱間圧延鋼矢板

SY295 U形 (W , W , W) (単位：円 / t)

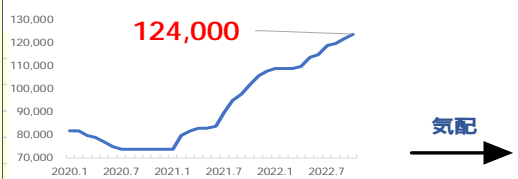


高炉メーカー各社は原料高騰を受け4月以降トン当たり35,000円の値上げを実施。昨年度からの値上げも含め2021年12月号～2022年9月号で10カ月連続の市況上伸となり、過去最高値の200,000円となった。
メーカー値上げ分は、概ね市場に浸透し、先行き、横ばいの見通し。

【主要鋼材の価格動向 H形鋼 (東京)】

H形鋼

SS400 200×100×5.5×8 mm (単位：円 / t)

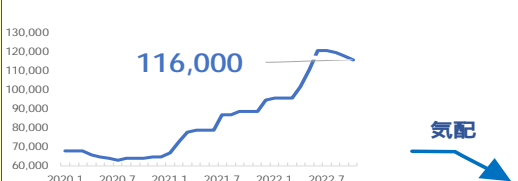


原料高を主要因とした高炉・電炉メーカーの値上げにより、2022年4月号から10月号まで7カ月連続で上伸。
原料価格は軟化傾向にあるが、メーカー各社は原料価格の先行きの不透明感から、販売価格を据え置き、価格維持の姿勢。気配は強含みから横ばいへと局面の変化がみられる。

【主要鋼材の価格動向 異形棒鋼 (東京)】

異形棒鋼

SD295 D16 (単位：円 / t)



原料等の高騰を受けて、電炉メーカー各社は段階的に値上げを実施。2022年6月号は過去最高値のトン当たり121,000円に上昇。直近では鉄スクラップ急落を受け、116,000円に下落。
メーカー各社は、価格維持の姿勢を崩していないが、鉄スクラップの急落を受けて、需要家の値引き要求も強まっており、弱基調で推移している。

グラフ内数値の色は、10月号の変動状況 (赤：前月上伸、黒：前月横ばい、青：前月下落)。気配は10月号時点の見通し (赤：強含み、黒：横ばい、青：弱含み)。

【主要鋼材の価格推移（東京）】

鋼板（厚板）

無規格 (単位：円/t)

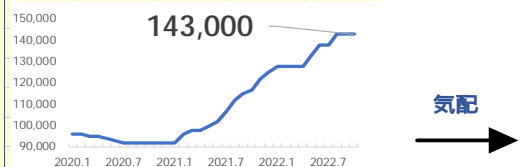
段階的に値上げ浸透も、騰勢に一服感あり



平鋼

厚6×幅50mm (単位：円/t)

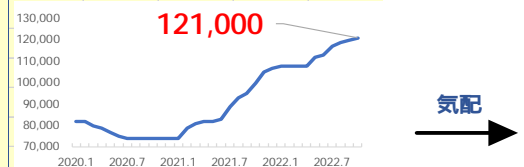
原料の価格動向に不透明感あり、目先横ばい



等辺山形鋼

SS400 6×50×50mm (単位：円/t)

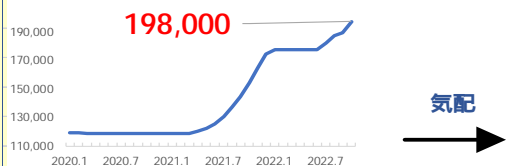
最高値更新も、原料安の影響から目先横ばい



一般構造用炭素鋼鋼管

S T K 400 外径42.7×肉厚2.3mm (単位：円/t)

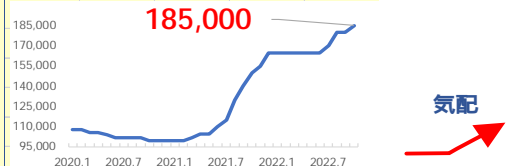
値上げ交渉進展、過去最高値を更新



コラム

B C R 295 厚9.0×辺200×辺200mm (単位：円/t)

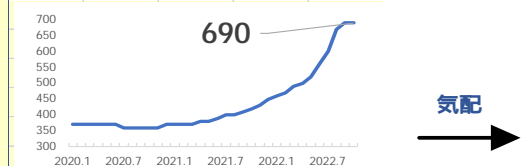
メーカー値上げ未達分の転嫁が進み、過去最高値



冷間圧延ステンレス鋼板

SUS 304 2B 厚2.0×幅1000×長2000mm (単位：円/kg)

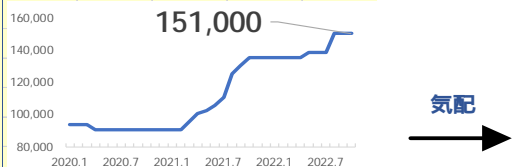
過去最高値も上昇に一服感



亜鉛めっき鋼板

厚1.6×幅914×長1,829mm 熱延 電気亜鉛めっき (単位：円/t)

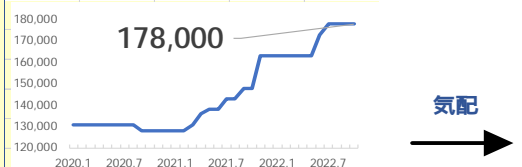
需給ひっ迫感が緩和し、横ばい



普通鉄線

8 径4.0mm (単位：円/t)

値上げ交渉続くも、横ばい



摩擦接合用高力ボルト

トルシア S 1 0 T M20 × 長60mm (単位：円/組)

メーカー値上げ交渉継続



グラフ内数値の色は、10月号の変動状況（赤：前月比上伸、黒：前月比横ばい、青：前月比下落）。気配は10月号時点の見通し（赤：強含み、黒：横ばい、青：弱含み）。

2022年上期に鋼材急騰要因となった原料の鉄鉱石や原料炭は、足元で下落に転じている。鉄スクラップにおいても直近で反発しているものの、ロシアのウクライナ侵攻前の水準を下回っている。歴史的な高値圏にある鋼材価格は、先行きの気配が「横ばい」の品種が大半となり、全般的に上昇基調が一服し天井感が台頭している。